

研究・調査報告書

報告書番号	担当
5 8	滋賀医科大学福祉保健医学講座
題名（原題／訳）	
Lifestyle habits and genetic susceptibility and the risk of esophageal cancer in the Thai population. タイにおける生活習慣と遺伝的要因の食道がんリスクに対する感受性	
執筆者	
Boonyaphiphat P, Thongsuksai P, Sriplung H, Puttawibul P.	
掲載誌（番号又は発行年月日）	
Cancer Lett. 2002; 186: 193-199	
キーワード	
食道がん、アルコールデヒドロゲナーゼ 2 (ADH2)、アセトアルデヒドデヒドロゲナーゼ 2 (ALDH2)、遺伝子多型、タイ	
要旨	
背景	
飲酒は食道がんの危険因子であり、アルコール代謝と関連する遺伝子多型では、アルコールデヒドロゲナーゼ 2 (ADH2) の*1/*1 型とアセトアルデヒドデヒドロゲナーゼ 2 (ALDH2) の*1/*2 型の組み合わせが、食道がんのリスクを高めるとされているが、大部分は日本からの報告である。さらに喫煙とアジアによく見られる betel chewing (ビンロウ、房状の実を、石灰を水で少し溶いたものと一緒に葉で包んでかむ) は口腔咽頭がんの危険因子である。本研究はタイにおいてこれらの因子と遺伝子多型、食道がんの関連を検討した。	
対象と方法	
この研究は病院における症例・対照研究である。タイ南部に位置する Songklanagarind 病院で 1997 年 8 月から 2000 年 5 月の間に病理学的に食道がん（扁平上皮がん）と診断された患者 202 人が症例として登録された。対照は、病院の入院患者の内、飲酒・喫煙関連疾患ではなく、かつ症例の親族でない者から、年齢 (± 5 歳)、性別、民族をマッチさせて 261 人が選ばれた。これらの対象者について、ADH2、ALDH2 の遺伝子多型、過去の飲酒、喫煙、betel chewing の状況が調査された。	
結果	
症例と対照の飲酒者、喫煙者、betel chewing をしていた者の割合はそれぞれ 73.8% と 49.0%、86.6% と 70.9%、41.1% と 24.9% であった（すべて $P < 0.001$ ）。多重ロジスティック回帰分析の結果、1 日 60 g を超える飲酒（オッズ比；OR : 5.84, 95%CI: 3.15-10.83）、1 日 10 本を超える喫煙（OR : 4.65, 95%CI: 1.99-10.84）、1 日 10 回以上の betel chewing（OR : 4.68, 95%CI: 2.05-10.72）が食道がんのリスクを上昇させていた。ADH2*1/*1 もまた食道がんのリスクを有意に上昇させていたが（OR : 1.56, 95%CI: 1.01-2.39）、ALDH2*1/*2 は関連を示さなかった。しかしながら ADH2*1/*1 と ALDH2*1/*2 を両方持つ場合のリスクは 4.41 倍（95%CI: 1.80-10.83）であった。さらに 1 日 60 g を超える飲酒者で、かつ ADH2*1/*1 または ALDH2*1/*2 を持つ場合のリスクは、それぞれ 11.46 倍（95%CI: 5.16-25.45）、10.83 倍（95%CI: 3.87-34.69）であった。	
結論	
タイにおいて、飲酒、喫煙、betel chewing が食道がんのリスクであった。さらに ADH2、ALDH2 の遺伝子多型と飲酒は、食道がんのリスクと交互作用を示し、ADH2*1/*1 または ALDH2*1/*2 と大量飲酒の組み合わせが食道がんのリスクを顕著に上昇させると考えられた。	